

第三二回兵庫県 消防操法大会開催!

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号
編集発行人 安 満 真 哉

二〇二六年
全国統一防火標語
火の確認
いい日を支える
いい習慣



消防操法大会 放水の様子

令和八年七月一二日(日)、兵庫県立広域防災センターにおいて、第三二回兵庫県消防操法大会が開催されました。当日は梅雨明けの暑さの中、県下各九地区から選抜されたチーム(小型ポンプの部一〇隊、ポンプ車の部七隊)が日頃の訓練の成果を存分に発揮し、暑さに負けない熱気溢れる大会となりました。

【開会式次第】

- 一、開会のことば(坂本大会副会長(消防協会副会長))
- 二、国歌斉唱
- 三、黙とう
- 四、大会会長あいさつ(安満消防協会会長)
- 五、激励のことば(齋藤知事)
- 六、来賓祝辞(北野県議会議長)
- 七、選手宣誓(神戸市西消防団Aチーム 竹中将 喜)
- 八、審査長注意(高崎兵庫県立広域防災センター長)

総指揮(六田大会副会長(消防協会副会長))

競技は、小型ポンプの部、ポンプ車の部の順に行われました。

各出場隊とも訓練の成果を十二分に発揮し、迅速かつ安全・正確な動作で火点に向けて放水が行われ、火点が落ちる度に応援団、観客から声援と拍手が沸き起こりました。全出場隊の操法終了後、大会審査長から審査結果の発表が行われると、会場からは出場選手に対して惜しめない拍手が送られました。大会結果は次のとおりです。

【大会結果】

小型ポンプの部

優勝

福岡町消防団

九七・五秒

(タイム四〇・四七秒)

準優勝

神戸市西消防団Aチーム

八八・〇点

(タイム四四・八七秒)

第三位

南あわじ市消防団

八八・〇点

(タイム四五・三五秒)

ポンプ車の部

優勝

南あわじ市消防団

一七八・〇点

(全国大会へ出場)

準優勝

姫路市網干消防団

一七三・三秒

第三位

赤穂市消防団

一六九・三秒

表彰式の後、筒井大会副会長(消防協会副会長)からの閉会の言葉をもち、第三二回兵庫県消防操法大会は幕を閉じました。

なお、大会の運営にご協力いただきました関係各位に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



ポンプ車の部
優勝 南あわじ市消防団



小型ポンプの部
優勝 福岡町消防団



令和八年度 兵庫県女性消防団員 活性化研修会開催！

七月二六日（日）、兵庫県立広域防災センター消防学校において「女性消防団員活性化研修会」を開催し、女性消防団員等あわせて八五名が参加しました。

本研修会は、女性消防団員の知識向上と消防団活動の更なる活性化を目的として実施しているものです。従来は毎年二月に開催しておりましたが、例年七月に実施していた「女性消防団員技術研修会」は屋外での実技を伴うため、夏季の高温環境下での実施が課題となっていました。

活性化研修会を七月に入れ替えて実施することとし、今回の研修会を開催いたしました。研修内容としては、芦屋市女性消防団「バーディーズ」による活動事例発表、一般社団法人リスクウォッチ顧問・長谷川祐子氏による講演、さらに公益財団法人兵庫県住宅再建共済基金からフェニックス共済「兵庫県住宅再建共済」についての案内が行われました。

芦屋市女性消防団「バーディーズ」の活動事例発表では、日頃の活動紹介に加え、防災啓発活動で実践されている内容を、参加された女性消防団員の皆さまがそれぞれの所属団に持ち帰り、今後の活動に活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、発表のご準備と実演にご協力いただきました芦屋市女性消防団「バーディーズ」の皆さまに深く感謝申し上げます。本来は二月に予定しておりましたが、大雪の影響により今回へ延期となったものの、おかげさまで大変有意義な研修会となりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和八年六月二〇日（土）に赤穂市の消防団へ新規加入した団員に対する訓練である消防団新入団員基礎訓練が赤穂市防災センターにて実施されました。訓練には社会人だけでなく、関西福祉大学（赤穂市新田）に在籍する学生六名（男性二名・女性四名）も参加し、消防職員や県消防保安課職員より訓練礼式やホースの取扱い、消防団の位置づけなどの説明を受けました。学生の皆さんが加入したのは、同消防本部へのインターンシップであったり、同消防本部で勤務している部活動のOGからの勧誘がきっかけとのこと。「地域に貢献できるような人になりたい」との頼もしい意気込みでした。



「バーディーズ」防災クイズの寸劇実演



一般社団法人リスクウォッチ 長谷川顧問

赤穂市消防団 新入団員基礎訓練



赤穂市消防団 学生消防団員

令和八年度 兵庫県功労者 表彰式挙行

兵庫県功労者表彰式が令和八年五月二九日（金）、兵庫県公館にて挙行されました。

令和八年度は二功労、一九五名が受賞され、表彰状及び副賞として銀杯が贈呈されました。

そのうち消防功労では、六名が受賞され、消防功労の受賞者を代表して神戸市消防団の穴田泰久団長が齋藤知事から表彰状を授与されました。

なお、消防功労の受賞者の方々は次のとおりです。

【消防功労】
（敬称略）

神戸市西消防団	団 長	穴田 泰久
明石市消防団	団 長	藤田 次男
新温泉町消防団	団 長	宇野 正宏
前神戸市消防局	局 長	栗岡 由樹
前姫路市消防局	局 長	改發 久樹
前宝塚市消防本部	消防長	高橋 康宏



穴田団長 代表受領

令和八年春の叙勲(消防関係)

県内の二二名が受章



春の叙勲 集合写真

令和八年春の叙勲が四月二十九日に発令され、消防関係では、全国で六三一名が受章されました。

兵庫県からも、元消防職員の方一名、元消防団員の方々二一名がその栄誉に輝かれました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、幾多の災害に對して、率先して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会・公共の福祉の増進に寄与されたこと等、これまでの功績により、叙勲の榮に浴されました。

今回の叙勲の伝達式は、令和八年五月二〇日(水)に東京都港区のニッショーホールにて執り行われました。

(敬称略)

(全国消防関係受章者数)

瑞宝中綬章	一名
瑞宝小綬章	三五名
旭日双光章	六名
瑞宝双光章	九七名
瑞宝単光章	四九二名
計	六三一名

兵庫県内受章者(消防功勞)

◎瑞宝小綬章

元 神戸市

消防正監

西岡 保雄

◎瑞宝双光章

元 養父市消防団

団長

小柴 勝彦



元 神戸市北消防団

団長

探田 芳博

元 明石市消防団

副団長

西海 能史

◎瑞宝単光章

元 水上町消防団

団長

稲継 敏充

元 丹波市消防団

副団長

岩澤 宏一

元 加古川市消防団

副団長

糟谷 昌吾

元 西宮市消防団

副団長

喜田 高生

元 姫路市姫路東消防団

分団長

小林 利亘

元 佐用町消防団

副団長

坂井 亮

元 宝塚市消防団

分団長

境 雅彦

元 尼崎市消防団

分団長

高田 幸春

元 丹波篠山市消防団

副団長

田中 一裕

元 加古川市消防団

副団長

田中 幸生

元 洲本市消防団

分団長

谷 泰秀

元 姫路市家島町消防団

分団長

中川 晶則

元 川西市消防団

分団長

中西 康雄

元 高砂市消防団

分団長

西垣 誠

元 丹波市消防団

副団長

藤本 修作

元 尼崎市消防団

副団長

古田 幸央

元 三田市消防団

分団長

南 弘

元 高砂市消防団

副団長

三好 啓一

消防関係褒章伝達式

総務省 消防庁



春の褒章 伝達式で出席の櫻井団長ご夫婦

令和八年春の褒章

令和八年四月二十九日に発令

令和八年四月二十九日に令和八年春の褒章が発令され、兵庫県から二名の方が藍綬褒章を受章されました。

藍綬褒章は消防団員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく貢献した方へ授与されます。

今回の伝達式は、令和八年五月一三日に東京都千代田区の合同庁舎第二号館(総務省)地下二階講堂にて執り行われました。

なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の

受章者は次のとおりです。

(敬称略)

(全国消防関係受章者数)

黄綬褒章	七名
藍綬褒章	九四名
計	一〇一名

兵庫県内受章者(消防功勞)

◎藍綬褒章

現 神戸市西消防団

団長

穴田 泰久

現 神戸市中央消防団

団長

櫻井 良生

第四六回 危険業務従事者叙勲

一八名の兵庫県下元消防職員の皆さまが消防功労関係で受章

消防関係叙勲伝達式

総務省 消防庁



危険業務従事者叙勲 集合写真

第四六回危険業務従事者叙勲が令和八年四月二十九日に発令され、消防関係では、全国で六三九名、兵庫県内では一八名の方々が受章されました。

著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。今回の叙勲の伝達式は、令和八年五月十九日（火）に東京都港区のニッショーホールにて執り行われました。なお全国の消防功労関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。（敬称略）

（全国消防関係受章者数）

瑞宝双光章	三五四名
瑞宝単光章	二八五名
計	六三九名

兵庫県内受章者（消防功労）

◎瑞宝双光章	元 西はりま消防組合
消防監	元 消防司令長 桑名 一博
元 加古川市	元 美方郡広域事務組合
消防監	消防司令 白岩 寧
元 尼崎市	元 明石市
消防監	消防司令長 林 伸亮
元 芦屋市	元 西脇多可行政事務組合
消防監	消防司令 藤浦弥宗次
元 神戸市	元 三木市
消防司令長 坂本 恵二	消防司令 藤本 佳久
元 神戸市	元 三木市
消防監	消防司令 宮田 俊也
元 豊岡市	元 西宮市
消防監	消防司令長 森下 重勝
元 吉谷 洋司	元 篠山市
◎瑞宝単光章	消防司令 山内 泰三
元 南但広域行政事務組合	元 小野市
消防司令 足立 真一	消防司令 若宮 尚

令和八年度 安全功労者総務大臣表彰



（左）名谷地区防災福祉コミュニティ （右）日本スピンドル製造株式会社

安全功労者総務大臣表彰は、「安全思想の普及徹底又は安全水準の向上のため、各種安全運動、安全のための研究、もしくは教育又は災害の発生の防止もしくは被害軽減に尽力し、又は貢献した方々の士気高揚を図る」という趣旨のもと、消防職員や団員を除く個人・団体を受賞対象として行われている表彰です。

全国で個人の部において二〇名、団体の部において九団体が受賞し、表彰式については、令和八年七月一〇日（金）に東京都の合同庁舎第二号館（総務省）地下二階講堂にて執り行われました。なお、兵庫県内の受賞者は次のとおりです。（敬称略）

【安全功労者総務大臣表彰（団体の部）】

名谷地区防災福祉コミュニティ（神戸市）
日本スピンドル製造株式会社（尼崎市）

消防団ピックアップ

『災害から地域を守る西宮市消防団』

西宮市消防団

【西宮市の概要】

西宮市は、兵庫県の南東部、大阪市と神戸市の中間地に位置し、南は大阪湾、北は六甲山地と接しており、人口は四七八、八〇一人（令和八年四月一日現在）、面積一〇〇・一八平方キロメートルの中核市で、大都市圏に好アクセスできる利便性と自然に囲まれた良好な住環境、多くの大学・短期大学を有する教育環境から文教住宅都市として発展し『関西で住みたいまち』に挙げられています。

市内には、高校野球のメッカである阪神甲子園球場、開門神事福男選びで有名な西宮神社や音楽・演劇・バレエ等あらゆる舞台芸術を通して多くの人が集う兵庫県立芸術文化センターを有し、スポーツ芸術文化が色づく魅力ある街を形成しています。

【西宮市消防団について】

西宮市消防団は、昭和二十二年九月に発足し、現在は一部七地区三三分団で構成され、総勢六六〇名（令和八年四月一日現在）が地域防災の要として市民の安全・安心な暮らしを支えるため、火災や風水害などの災害対応、警戒監視、地元の各種イベントへの参加・警戒等、多岐に渡る活動に従事しています。

【大規模土砂災害訓練に参加】

令和八年五月二五日、西宮

市総合防災訓練（大規模土砂災害訓練）が実施され、西宮市消防団が現場活動隊として参加しました。本訓練は、地震や集中豪雨により土砂崩れ等が発生した場合を想定し、防災関係機関の連携強化と災害対応能力の向上を目的として実施されたものです。

訓練では、土砂崩れにより多数の要救助者が発生したと想定のもと、消防、警察、自衛隊などの関係機関が連携して活動を展開しました。西宮市消防団は現場活動隊として参加し、消防職員と協力しながら情報収集、警戒活動、救助活動などを実施しました。近年は、全国各地で線状降水帯や集中豪雨による土砂災害が頻発しており、地域防災力のさらなる向上が求められています。土砂災害は発生場所や規模の把握が難しく、迅速な情報収集と関係機関の連携が重要となります。西宮市消防団は、火災対応だけでなく、風水害や地震災害など大規模災害時においても地域防災の重要な担い手として活動しており、地域の地理や実情を熟知している消防団員は、住民に最も身近な防災機関として、避難誘導や情報収集、救助活動などの役割を担っています。

西宮市消防団では、今後も各種訓練の実施を通じて災害

『伝統と絆で紡ぐ安全・安心の東灘』

神戸市東灘消防団

北に緑豊かな六甲山系、南に美しい瀬戸内海を望む自然あふれる街、東灘区。ここは全国にその名を馳せる日本一の酒どころ「灘五郷」のうち、魚崎郷、御影郷、西郷の一部を擁する歴史と伝統が息づく地域です。また、洗練されたお洒落なカフェが点在する閑静な住宅街が広がる一方で、初夏になれば美しい住吉川の清流に蛍が舞うなど、都市と自然が美しく調和した地域でもあります。さらに、各地域で世代を超えて熱く盛り上がる「だんじり祭り」に代表されるように、住民同士の固い絆が今も深く根づいているのがこの街の大きな特徴です。

この東灘の街と、そこに暮らす人々の命を守る神戸市東灘消防団は一〇分団・総勢約一三〇名の団員で構成され、地域に密着した多様な防災・減災活動を展開しています。【震災の教訓を伝える訓練と市民放水大会】

阪神・淡路大震災の教訓を風化させず次世代へ語り継ぐため、「ひょうご安全の日のつどい」などのイベントで地域全体の防災意識向上を牽引しています。また、「東灘市民放水大会」では、住民と合同で行う小型動力ポンプによる一斉放水を披露し、地域一丸となった初期消火体制の確立と防災ネットワークの強化を図っています。

【山から海まで、地形特性に応じた各種専門訓練】

北に六甲山、南に大阪湾を抱える東灘区の特長に合わせて、あらゆる災害を想定した専門的な訓練を重ねています。乾燥する季節には山林火災の拡大を防ぐための「林野火災防衛訓練」を行い、過酷な山岳地形での消火連携を確認。また、台風や地震による高潮・津波被害を想定した「防潮鉄扉閉鎖訓練」では、沿岸部の安全を確保するための迅速かつ確実な操作を徹底し、街の全域に安心の網を張り巡らせています。

【地域の安心を支える強固な拠点づくり】

自分たちで守る」との精神を胸に、地域に根差した活動を続けていきます。



要救助者の救助活動を行う様子



要救助者を搬送する様子

われら若手消防団員

～「まちを守る砦として」～



豊岡市出石消防団 班長 中嶋 亮

豊岡市出石町は、江戸時代には出石藩五八、〇〇〇石として栄えた城下町です。町の中心部に今も残る碁盤の目のような細い通りと、間口が狭く奥に長い独特な木造家屋の造りは、風情ある美しい街並みとなり、山陰の小京都とも呼ばれています。そんな出石で生まれ育ち大学を卒業したのちUターン就職、同時に消防団に入団しました。わが家は父も祖父も消防団員であり、火事が起これば制服で駆け出していく姿を子供の頃からよく目にし、その勇ましさに淡

い憧れのような感覚もありました。しかし、実際に消防団員として活動してみると、想像していたものとはかなり異なるものでした。現場への出勤よりも、はるかに多くの時間を費やすのは、日頃の訓練や点検、防火防災の広報宣伝などの地道な活動なのです。正直、はじめは物足りなさを感じ、この活動が本当にこの町を災害から守るために役に立っているのだろうかなどと考えたこともありました。しかしある時、先輩の団員から「訓練や点検は自分自身を守るため」「災害を未然に防ぐための広報活動が一番大事な任務だ」という話を聞き、今は自信と誇りをもって活動が続けています。

父の口癖は「消防団は出石を守る最後の砦だ」です。城下町の美しい街並みと人々の暮らしを守る砦として、これからも消防団の活動を頑張っていきたいと考えています。



東灘市民放水大会の様子



林野火災防衛訓練の様子



東灘だんじりの様子

各分団の拠点が計画的に整備されており、大規模災害が発生した際にも、団員が迅速かつ安全に出勤できる強固な体制を整え、地域防災の要としての機能を高めています。【若者や大学と連携した次世代への防災アクション】

区内に点在する大学や、「六甲アイランド分団」などに所属する学生団員と緊密に連携しています。若い感性と行動力を活かした防災フェスタの開催や、住民向けの体験型初期消火指導などを行い、次世代への「防災のバトン」を繋ぐ取り組みを推進しています。

東灘の象徴である「だんじり祭り」をはじめ、地域の伝統行事や各種イベントの際には、安全に催しが進行できるよう入念な見回りや警戒活動を行っています。街の活気と笑顔を陰から支えている消防団はこれからも一丸となって「安全・安心の東灘」を守り続けていきます。

わが町の団長さん

「人が集う、
その背中に
信頼あり」

神河町消防団

立岩 伸啓



神河町は、兵庫県の中央付近に位置するハート形の町です。壮大なススキの高原「砥峰高原」、清流が美しい名水スポット「越知川名水街道」、アルパカなどの動物と触れ合える「農村公園ヨーデルの森」、そして日本で最も新しいスキー場「峰山高原リゾート ホワイトピーク」など、四季を通じて自然を楽しむことができます。

神河町消防団は、平成一七年一月に旧神崎町と旧大河内町が合併し、平成一八年四月に発足しました。現在、七分団二三部、団員数四四四名で構成され、町民の安心安全を守る為、日々活動しています。

立岩団長は、平成一三年四月に消防団に入団されました。長年にわたり消防団活動に尽力され、令和六年に副団長、そして令和八年四月に団長に就任されました。また父、祖父も消防団長を務められ、地域防災に尽力された消防団OBです。責任感が強く、温厚な人柄で、周りからの信頼も厚い兄貴分であり、その人望

から自然と人が集まってくる、まさに消防団長として神河町消防団を牽引するにふさわしい方です。

人口減少が進む中で、消防団の力を維持し、次の世代につないでいくために、「訓練の質の向上」「分団間の連携強化」「新入団員の募集活動」を三本柱として取り組み、限られた人数の中、互いに支え合い、組織としての力を最大限に発揮できるように日々尽力されています。

やるべきことはしっかりやる中で、楽しい消防団を作る。魅力ある消防団を目指して、今後も頼もしいリーダーとしての活躍を期待しています。

「照于一隅を
ポリシーに
地域を守る」

姫路市姫路西消防団

宮西 久志



姫路市姫路西消防団は、主に姫路市の西部から北西部を管轄しています。管轄する地域内にもさまざまな特色があり、姫路駅南側ではオフィス街、姫路城西部の住宅密集地、国道二号線や姫路バイパスなどの交通量の多い幹線道路、北西部は自然豊かで名物の筍やそうめんの生産も盛んです。また「西の比叡山」と称され、

ハリウッド映画のロケ地でも有名な「書寫山園教寺」も管轄しています。

宮西団長は、平成四年に姫路市姫路西消防団白鳥分団青山班に入団。お仕事の都合で一度は退団されましたが、平成一〇年に青山分団設立と同時に再入団されました。入団以降、消火活動の第一線で活躍してこられた宮西団長は、特に印象に残っている活動として、自宅近くのお寺が全焼し、夜通し消火活動・残火整理を続けたことを挙げられています。

現在は「地域の安全・安心のまちづくりに向けた消防団の団結」を掲げ、組織を牽引。そんな宮西団長が大切にしている言葉は「照于一隅（しよかんいちぐう）」。

天台宗の開祖、比叡山延暦寺を建立した伝教大師最澄の言葉と伝えられています。たとえば社会の片隅であっても、自分ができる役割を果たし、周囲を明るく照らすこと。その温かく力強いリーダーシップで、消防団の団結力を高め、地域の安全・安心を支えておられます。

「市民生活の
安全と安心のために」

加古川市消防団

花房 景造

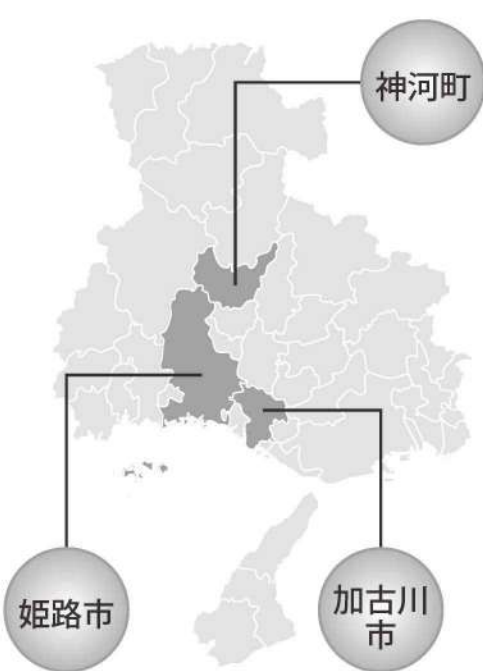


加古川市は、一級河川「加古川」が市のほぼ中央部を流れており、水の恵みを受け、発展してきたまちです。

臨海部は東播磨地区石油コンビナート等特別防災区域を含む工業地域があり、中央部にはJR加古川駅を中心とした商業地区が広がり、北部は田園地帯から山林へと続いています。

このような地域性のため、火災種別は工場火災や密集地での火災、林野火災など多種多様であり、これらの火災に対応するため、消防団は常に消火訓練等を積み重ねています。

加古川市消防団は、現在、



がんばってます、 女性消防団員

女性分団、企業連携消防団員を含め一団本部、一九分団、団員数一四三名となっています。

このような加古川市消防団に花房団長は昭和六〇年に入団、以来四一年間消防団活動が続けられ、消防団に対する情熱と行動力、そして実績と経験を持って、令和八年四月に第一消防団長に就任されました。

入団当初から、消防団の活性化を願い、施設・装備の充

実をはじめ団員の確保にも尽力されました。また、団長は謹厳実直な人柄で、団員はもとより地域住民からも信頼されています。

今後は、消防団の特性である、「地域密着性」、「要員動員力」、「即時対応力」を生かして、地域の防火防災力の向上を図り、「夢と希望を描き幸せを実感できるまち加古川」の実現をめざし、市民生活の安全と安心を確保する決意を新たにされています。

『女性の視点を生かした活動を』

南あわじ市消防団なでしこ分団

南あわじ市消防団なでしこ分団は、平成一九年一二月に発足し現在中谷分団長のもと一六名の団員で活動している女性消防団です。

主な活動として、防災訓練での普通救命講習をはじめ、災害時を想定した炊き出し訓練、保育所等の子どもたちを対象とした火災予防教育などを行っています。救命講習では、AEDの使い方や応急手当の方法をわかりやすく指導し、炊出し訓練では、防災機材の使用や調理手順の確認を行い迅速かつ的確な行動や対応に備えています。また、保育所等での火災予防教育では、紙芝居やカードゲームを使って楽しみながら防火の大切さを伝えています。

さらに、団員同士の学びや連携強化のため隔月で「なでしこサロン」を開催し、防災に関する情報共有や意見交換を行っています。



なでしこ分団の方々

います。これまでも日本赤十字社主催の応急手当競技会へ出場し、上位入賞を果たした実績もあり、日頃の訓練や知識・技術の高さが評価されました。今後も、地域に寄り添いながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。

（お詫びと訂正）

令和八年春発行の兵庫消防第七〇八号「わが町の団長さん」の記事におきまして、執筆者の所属名に誤りがございました。

（誤） 姫路市家島消防団

（正） 姫路市家島町消防団

水田 清久

お詫びして訂正させていただきます。